

令和 3 年 11 月 10 日

福島大学環境放射能研究所 第 16 回研究活動懇談会 開催

福島大学環境放射能研究所は、研究成果を地域住民の方へ発信する「研究活動懇談会」を毎年数回行っています。この度、12 月 11 日（土）に第 16 回目となる懇談会を開催することになりました。

今回の懇談会では「阿武隈川の 10 年とこれから」をテーマに、当研究所ほか、阿武隈川漁業協同組合、福島県内水面水産試験場、国立研究開発法人水産研究・教育機構から講演者をお迎えし、阿武隈川の漁業復興の現状と課題、地域活性化に向けたこれからの取り組みについて、分かりやすくお話しいたします。

本年 4 月に、東日本大震災より 10 年ぶりに一部条件付き漁業・遊漁が再開された阿武隈川と周辺地域の活性化のため、参加者の皆さんと活発な議論が行われる場となることを期待し開催いたします。

●日 時：令和 3 年 12 月 11 日（土）13：00～16：45

●場 所：郡山市市民交流プラザ 大会議室（ビッグアイ 7 階）
オンライン同時配信予定

●テーマ：「阿武隈川の 10 年とこれから～漁業と地域社会の活性化に向けて～」

●発表者：難波 謙二（福島大学環境放射能研究所 所長）

※発表順 神山 享一（福島県内水面水産試験場 調査部長）

和田 敏裕（福島大学環境放射能研究所 准教授）

坪井 潤一（国立研究開発法人水産研究・教育機構 主任研究員）

堀江 清志（阿武隈川漁業協同組合 事務局長）

●申 込：参加費無料・事前申込制

電話、メール（以下問合せ先参照）または右の QR コードより
参加申込みください。

申込期限は 12 月 10 日（金）正午とさせていただきます。



※事前の周知と当日のご取材よろしくお願ひします。

当日の取材をご希望の方は、前日までに以下お問合せ先までご連絡ください。

（お問合せ先）

福島大学環境放射能研究所 事務室

電話：024-504-2114 FAX：024-503-2921

メール：ier@adb.fukushima-u.ac.jp



福島大学環境放射能研究所
第16回研究活動懇談会

阿武隈川の 10年とこれから

～漁業と地域社会の活性化に向けて～

2021年 **12月11日** **土**

13:00～16:20

郡山駅前 ビッグアイ7階

(市民交流プラザ 大会議室)

参加
無料

事前
申込制

オンライン
同時配信

2021年4月1日、
阿武隈川では東日本大震災
から10年ぶりに条件
付きで**漁業、遊漁が解禁**
されました。

漁業や周辺地域社会の
活性化に向けていま何が
必要か？

参加者で議論しましょう。

プログラム

原発事故から10年を経た
内水面漁業の現状と漁業復興に向けた取組
神山 享一（福島県内水面水産試験場）

阿武隈川の新たな脅威：
外来ナマズの分布と移動生態

和田 敏裕（福島大学環境放射能研究所）

ふくしまを川のなかから盛り上げる
坪井 潤一（水産研究・教育機構）

大震災と放射能！川の中から見た10年
堀江 清志（阿武隈川漁業協同組合）

阿武隈川の 10年とこれから

～漁業と地域社会の活性化に向けて～

2021 年

12月11日(土)

(会場受付開始 12:30～)

プログラム

- 13:00 | 開会挨拶
- 13:10 | 趣旨説明
難波 謙二
- 13:30 | 原発事故から10年を経た
内水面漁業の現状と漁業復興に向けた取組
神山 享一
- 14:00 | 阿武隈川の新たな脅威：
外来ナマズの分布と移動生態
和田 敏裕
- 14:30 | 休憩
- 14:40 | 鯉に恋する郡山プロジェクトの紹介
- 14:50 | ふくしまを川のなかから盛り上げる
坪井 潤一
- 15:20 | 大震災と放射能！川の中から見た10年
堀江 清志
- 15:50 | 意見交換
- 16:15 | 閉会挨拶

◆対象

どなたでもご参加いただけます（参加無料）

◆会場

郡山駅前 ビッグアイ 7 階（市民交流プラザ 大会議室）
オンライン同時配信（詳細はお申込みの方にご案内します）

◆参加申し込み方法

二次元バーコードより参加登録
またはお電話・メールにてお申込みください



お申込み電話番号・メールアドレス

024-504-2114

ier@adb.fukushima-u.ac.jp

講演者プロフィール



難波 謙二

福島大学環境放射能研究所所長。専門は環境の微生物学。福島県の実地や水産業に大きな関心を持ち、研究を行ってきた。震災前は、阿武隈川塾塾員として阿武隈川の川の中にいる小さな生物について紹介していた。



神山 享一

福島県内水面水産試験場 調査部長。農林水産省 水産大学校増殖学科卒業。震災前は海面や、内水面の増養殖に関する調査研究等に従事し、震災後は栽培漁業の再開に関する業務や、水産物の放射性物質汚染に関する調査研究に従事。



和田 敏裕

福島大学環境放射能研究所准教授。専門は、魚類生態学、水圏放射生態学。震災前は、主にカレイ類を中心にした海産魚類の生態特性の解明、および栽培漁業の技術開発に関する調査に従事。震災後、福島県内の海産魚ならびに淡水魚の放射性物質汚染や生態特性に関する調査に従事し、研究成果を国内外に報告している。



坪井 潤一

国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産技術研究所主任研究員。専門は水産資源学、保全生態学。3歳から魚釣りが趣味で、「キャッチ&リリースの有効性」について研究し、東京大学より博士号（農学）取得。2013年より、福島県内におけるアユを中心とする淡水魚の放射性セシウムに関する研究に従事。最近では、漁業協同組合の経営にも興味をもち、コンサルタント的な講演活動も精力的に行っている。



堀江 清志

阿武隈川漁業協同組合事務局長。昭和54年より勤務、福島県を流れる阿武隈川の漁業権免許による魚類等の管理を行ってきた。震災原発事故以来10年間の休止より本年度条件付解禁となった。休止期間から現在までの出来事についての報告を様々な場所で、お話ししている。震災前は、親子で楽しめる阿武隈川塾の塾長を務めた。

主催 福島大学環境放射能研究所

共催 阿武隈川漁業協同組合

問合せ

福島大学環境放射能研究所 事務室

TEL: 024-504-2114 Email: ier@adb.fukushima-u.ac.jp